

作

八四 受信〇〇九三〇八 譯了二一一〇 電〇二〇四四 作概〇

親展

● 廈門特根

● 大海參一部・支那方面艦隊口・高警口

機密 第三一一六、一七番電

晴虎軍機

宛 廈門武官

受報着 上海根據地隊 香港根據地隊各司令官

南支部隊電令第三三號ニ依リ廈門根據地隊司令官ハ一部兵力ハ准士

官以上ノ指揮スル挺身潛伏見張員其ノ他ヲ第二見張所ニ殘シ可成

速ニ川石島第二見張所ヨリ撤收セシムベシ。

ニ廈門武官ハ石地區民軍ヲ指導シ海軍ニ協力セシムベシ。

通 三 呂一Aヲ十八 (四七〇五IC) 高雄



八一 受信一〇九三七 譯了 一〇五九 電〇〇二七五 作區〇

急 類 屏



共

符

一〇航空艦隊 豊島空・名古屋空

機密第〇一〇六四九番電

發 一〇A.P. 參謀長

一〇航空艦隊機密第三〇〇九五九番電（軍令部機密第二八一八三八番電要旨）ノ航空部隊改編豫定「八月一日附」ヲ「八月三日附」ニ改メラル。

通二五六 呂一Aケ十四 (三九八五XO) 七PAB放 田中 (阿波)

八 一 受信一三二五 譯始一三〇〇 電〇〇三二四 作機〇

親展
急扱

作

先遣部隊
東京通信隊・海軍無線隊

機密第〇一〇九五五番電

神龍部隊

通報 大海

日電令作第一〇四號

晴嵐特別攻撃隊ハP.M.東方ヲ經由スルコトナク所定計畫ニヨリ成ル

ベク速ニ嵐作戰ヲ決行スベシ

通三〇二 呂一Aケ十四(二五七五KC)六FF返放

八二
受信開始
〇一三二七
〇一〇五
譯了
〇一四五
電
〇六〇五
作
概
〇

親展
級



海上
護衛
總口

大海參一部・九〇三空▽・津輕防備隊。函館、船川、小樽各在勤武官

機密第〇一一八〇〇番電

發 機雷部隊 (常磐艦長)

機雷部隊 戰術概報 第二號

津輕海峽 第二機雷 堰敷 設八月一日一六二六開始一七五四終了計畫通り

實施 敷設機雷 八〇〇個 故障機雷 ナシ。

通六八六

ロ一Aケ十四 (八五一〇E) 大通



緊急親展

八 一 受信 二二四九〇

譯了 〇〇五〇

電 〇〇〇六〇〇三

航作 橋本〇

第一千歳航空基地

海軍總隊口

大津一部・松島、三澤各空基地・一〇一航隊、一〇、五、三各航空

機密第〇一一八一二番電二分ノ三

發 七〇六空副長

宛 G B 參謀長

通報 航本 七〇六空司令・七〇六空飛行長

G B 機密第三一一九一二番電關聯

機材改修工事ノ實施ハ左ノ理由ニ依リ千歳基地ヲ適當ト認ムルニ付然ルベク處理相成度

一 三澤基地ニ於テハ八月八日迄第一劍用機材ノ改修ニ當リ第二劍ハ同日以降トナル

二 千歳基地ハ三澤ヨリ工員ノ派遣ヲ受ケ本日ヨリ着手可能ノ如ク手配済ニシテ一部既ニ着手中十二日迄ニ完成ノ豫定

三 指導官其ノ他幹部ハ千歳ニアリ空輸ノ爲搭乗員ノ基地分駐ハ三澤基地ノ防備施設ト相俟テ全面的廣範圍ノ指導ヲ行フニ程メテ不都合ナリ。

通六二五六一呂一八ケ十四(八二二〇〇)六通

八 一 受信二二一三六
譯了二三一二一電〇〇五二六 作概〇

親作
展急



親展

三 航空艦隊

海軍總隊 高警

機密第〇二一九三六番電

宛 參謀長

電令作第一四號關聯

當方準備、都合アリ丹作戰參加兵力ノ

直接結合ノ爲參謀一名派遣相成度。

通五六九

呂二A

(二二一九三六番電)

於

田(言)

田()

作

八三

受信 〇〇九〇二六
譯始 〇九三四

譯了 〇九五一

電月 〇一三九二
電至 〇一三九四

航作 概
本〇

緊急親展

● 木更津航空基地

● 海軍艦隊口・東通・横通・大和、松島、三澤各航空基地

● 第一千歲航空基地

機密第〇二一八一四番電三分ノ二二三

發 七〇六空副長

宛 第三航空艦隊參謀長

通報 七〇六空司令 七〇六空飛行長 一技廠長

木更津機密第三一一四三八番電關聯

一 陸攻ノ改修ハ當基地機密第〇一一八一二番電ノ趣旨ニ依リ當基地ニ

於テ實施ノ事ニ改メラレ度 尙三澤ニ於テ實施ノ場合ハ十六日完成

トナル豫定 (第四十一航空廠意見)

通 一六六六・一三七八 呂一八分十以 (八五二〇R0) 大誌

(一)

二 當基地現存ノ改修部品ハM二六機分ニシテ爾後製作ノ餘カナシ
 三 一 技廠補給工場製作部品M二十機 M一・二十機全部ヲ當基地ニ空輸サレ度
 四 G B 電令作第一三五號ニ依ル當基地空輸器材ノ現状ニ〇型九機（松島航空隊ヨリ五機第七二一航空隊ヨリ四機）別ニ第七二一航空隊ヨリ二機空輸中一型一機三四型一機尙搭乗員ハ一〇A P一〇組第七二一航空隊五組「外ニ二組空輸中」ノ外未輸入
 五 搭乗員用裝具品 陸戰靴ハ訓練ノ關係上急送ノコトニ取計ハレ度。



至急
親展扱

八
三二
受信開始
〇〇三二二〇
譯了
〇〇五〇
電
〇一二二四
航作
本概
〇

第三航空艦隊口・第五航空艦隊口

大海參一部長・高警口・二九航戦口・小松空基地・松山空基地

機密第〇二二〇一五番電

通報 第十方面軍

G B 電令作第一五四號

一 第三航空艦隊司令長官ハ G B 電令作第一四五號ニ依ル第四次丹作

戦兵力ヲ逐次隠密ニ臺灣ニ進出伏勢待機セシムマシ

二 進出時機ハ當面ノ颱風通過直後ニ選定シ五日乃至七日ト豫定

通一四三九呂一Aケ一四(B)GF 原(大河原)

作

親展扱

八三 譯受 始信 〇〇五八 譯了 〇三四〇 電〇二四二七六 航作 本概 〇

高警尸・二十九航戦

大海参一部・三、五各航空艦隊尸・小松、松島各空基地

機密第〇二二〇二三番電 二分ノ一二

發 G B 参謀長

宛 第十方面軍参謀長 高雄警備府参謀長 第二十九航空戦隊司令官

G B 電令作第一五四號關聯

第四次丹作戦兵力臺灣進出後攻撃時機決定ノ爲極力「レイテ」偵察ニ依リ敵空母在泊ノ確認ヲ貴軍ニ要望致度處之ヲ許サザル狀況モアルベキヲ以テ當司令部ニ於テ情況判断シ敵機動部隊ノ入泊ヲ推定シ得ルニ至ラバ進出兵力ニ對シ「丹作戦發動」ヲ下令セラルル内意ナリ
通一五一四・一四八四 呂一〇Aケ一四(B) G B P

爾後攻撃發進時機等ハ現地ニ於テ敵機來襲狀況及氣象等ニ即應シ進出
部隊指揮官ニテ好機ヲ捕捉スルノ要アル處本件貴軍ニ於テ機ニG B 機
密第三一〇〇五八番電ノ外攻撃全般ニ亘リ細部ノ指導援助ヲ得テ本作
戦ノ必成ヲ期シ度。

八三

受信一〇九五三
譯始一〇九五三

譯了一一四五 電〇一五〇三

航作概本〇

大和航空基地

作戰緊急
親

二九航空戦隊

海軍總隊口・高警 P

機密第〇三〇五八番電

發 三A 參謀長

大和基地機密第〇二一一〇一番電作成替

貴機密第〇一一九三六番電關聯

丹作戰參加兵力ハ七〇六空攻隊第四〇五飛行隊銀河二五機ニシテ目下

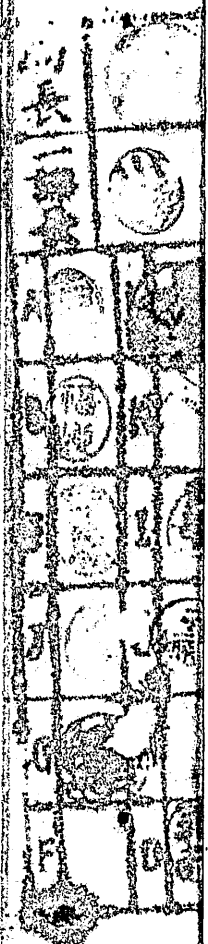
小松基地ニテ待機中ノモノヨリ其ノ小數機宛逐次貴地ニ進出セシメ度

キ所進出基地並ニ進出上ノ注意事項等通知セラレ度

向幕僚ノ派遣ハ作戰上困難ノ爲攻隊其ノ他ニ關シテモ當方ニ於テ詳細

通一七二八 呂一Aケ十三(三八四二、五〇) 七P G B 放

ニ準備ノ上進出ヒシムル豫定ニ付然ルベク御了承ヲ得度



八
四五
受信
開始
〇九〇〇
〇九三〇
電一九七四
作區〇

組
長
風
急

東
通
南
遣
艦
隊
口

三根
一
根
一
泰國在勸武官

機密
第
〇
三
一
〇
五
〇
番
電
二
分
ノ
三

宛
東京中央

一 第一三根兵力配備ヲ近ク左ノ通變更ノ豫定

(1) 第十二警備隊ヲ第十三警備隊ニ編合（司令深見大佐）

(2) 「モールメン」ニ第十三警備隊派遣隊（約一五〇名）ヲ置ク

(3) 第十三根拠地隊司令部及第十三警備隊ヲ「バンコック」ニ進出ス

二 右ニ關聯八月十日附左記ノ通發令方取計ハレ度

(4) 第十二警備隊ヲ解除要員ハ第十三警備隊ニ編入ス
(5) 佐藤（二九二）第十三根拠地隊參謀長兼現職稻見（二七九八）兼第十三根拠地隊參謀

通一九八二
一九七九
天二日
夕十三
（二七五九〇四）
十通

海
軍



三 受信一五四五 譯始一六〇六 譯了一八一〇 電自〇〇一七七一八六 航作概本〇

作戰緊急

二九航戰

第三航空艦隊

大海參一部・海軍總隊口・七〇六空・五航艦口・高警口

松島、小松各航空基地

機密第〇三一―一二四番電

三分ノ一三三

宛 參謀長

G B 司令作第一四五號關聯

一 配備豫定基地機數高雄一五 臺南五 (以上作戰主基地) 新竹五 (

分散基地) 全部耐彈掩体ニ格納シ得ル見込

二 當部隊偵察兵力不足ノ現状ニ鑑ミ銀河隊ノ編成ニ事前偵察・戰果確

認機最小限四機ヲ含メラレ度右ノ内二機ハ彩雲ヲ以テ充當スルモ可

三 當方面燃料充分ナリ八〇番通一〇〇同陸七五及二式五〇番通一型一

通 一八六一
一八六三
一八六九

呂一Aケ十四(一〇二六五KG) 二九SFP

型一〇〇準備シアリ

四、銀河用統一翼下増槽六〇同胴體用増槽ナシ偵察用銀河ハ勿論攻隊

ノ一部モ胴体用増槽裝備翼下増槽ハ全機裝備進出セシメラル度

五、其ノ他進出持參セラレ度補用部品等後報ス

六、整備員ノ進出不要ナリ

七、進出時左ニ留意セシメラル度

(イ) 當方面最近ノ敵襲閑散ナルモ一六三〇以後到達スルヲ可トス

(ロ) 南部方面雨季ノ爲天候不良ノ場合アリ。

人 三 受備 〇三六三〇一 了 〇八〇〇 〇〇一九七三 相 人 〇

五 〇〇〇〇

● 舞通・東 通

● 利 根

● 共 符

機 設 〇三一一四三番電二分ノ二

發 臨 監 長

病 兼 備 人 事 部 長

通 報 人 事 局 長 利 根 監 長

本 監 二 十 五 耗 三 聯 裝 換 鏡 四 基 二 十 五 耗 單 裝 換 鏡 二 〇 門 增 備 八 大 半
利 根 ヲ 移 裝 二 付 左 記 員 數 利 根 ヲ 至 急 轉 勤 方 不 以 誤

御 禮 呈 候 寄 附 二 六 號 ノ 一 〇 二 依 〇 請 求 人 員 ト 八 別 二 付 念 ノ 爲
砲 術 科 分 隊 長 一 名 高 砲 八 名 書 櫃 三 二 名 無 卒 下 士 官 一 〇 名

通 三 〇 三 三 三 〇 〇 二 呂 一 A 夕 十 四 (六 四 四 五 四) 吳 通 海 軍 ()

第 十 信 課 課

無事兵四二 主計兵（無事）二名 衛生兵（無事）一名
計六名

海

軍

日

第九
十信
課課

第十信

八三
四
一
〇
一九二七
〇八三〇
〇九二〇
〇一九七六
作
〇

東京通信 在泰留附武官・十一根
南方軍總司令部

後發 〇三二二六番地

東京中央 歐參謀團長

西方軍總司令部 第二八五番

〇三二二六番地

〇三二二六番地

〇三二二六番地

〇三二二六番地

〇三二二六番地

シ右空輸關係人員及物件ノ緊急輸送ヲ實施スベシ
四空輸中繼基地（佐世保 定海 淡水 香港 三亞ノ豫定）ハ空輸
機ノ整備並ニ補給ニ協力スベシ。

八五 親展

受信〇九五六 譯始一〇四一

譯了二二〇

電自〇二六二六 電至〇二六二八 航戰

人事・航本

第二千歲空基地・第三美幌空基地・一〇〇一空・一〇二二空

海軍總隊口・三航隊口・七〇六空

機密第〇四一四三八番電 三分ノ一三三



通報 航空本部 人事局

第四空挺隊員及第二劍作戰選抜搭乗員ノ人事及金鑑給與御取計ヒニ關シテハ左ニ依リ處理相成度

一、第四空挺隊員ハ八月五日附（逐次追加選抜ノ者ハ其ノ都度）一時第一〇八一航空隊ニ編入

通三〇二〇、三〇二一、三〇二二 呂一Aケ十四（六二四五KC）阪通 海軍

第... 課

但シ航空事故ニ依リ目的地不達ノモノ（人員機材共ニ）ハ選抜責任者ニテ處理ス

二一UFB電令作第五〇號（GB電令作第一三五號關聯）ニ依ル劍作戰選抜搭乗員ハ夫夫選抜所轄ニテ處理ス

三、第四夜戰隊指揮官ハ前各號ニ依ル人員ヲ至急關係各部ニ報告通報サレ度

四、諸給與（航空加棒及食料ヲ除ク）ハ原所轄ニテ三ヶ月分前渡ス

五、派遣員各自ニ對シ携帶給與通牒ヲ發行第一〇八一航空隊ニ至急送付サレ度

六、八月一日以降人體給與ノ掌理ヲ北東航空隊ニ委託一〇八一空ヨリ派遣ノ掌理兵之ガ實務擔當ノ事

第十號

八四 受信 二二〇九 譯了 二二〇五 電〇二二七一
始 二二一五 電〇二二七二 航作本 〇

緊急
新

小松航空基地

大本營海軍部

三、五各航空艦隊P・高警P・七〇六空
第二十九航空艦隊P

機密 第〇四一六三七番電 二分ノ一二

發 海軍總司令長官

神風特攻第五御楯隊進發ニ際シ訓示

戰機熟シ諸子ニ進發ヲ下令ス

諸子ノ將ニ屠ラントスルハ年來ノ頑敵ニシテ過去累次ニ亘リ幾千ノ英

靈之ガ撃滅ニ長恨ヲ殘シ今之ガ驕慢横行ハ一億宿怨ノ籠ル所ナリ

茲ニ諸子ハ決斷作戰一億總特攻ノ先陣トシテ此ノ宿敵ヲ粉碎以テ敵進

攻ノ骨幹ヲ芟除シテ決勝ノ一路ヲ啓開セントス

道二七一一・二七一四 呂一Aケ一四ハB(GERP)

誇リヤ高ク任ヤ重シ
往ク大君ノ御楯トシテ生ヲウクル二十幾年今ゾ學生ノ精魂ヲ傾倒シ
テ之ヲ必成セヨ。



八四 受信始一九一〇

譯了二〇〇五

電〇二二三四

作概〇

緊急

東京展

横領P・佐領P・大警P・第三第一〇第二三各航空艦隊P
第一〇一航空戦隊P・三海航空基地

機密第〇四一六四一番電

宛 鵬部隊指揮官 横領佐領巻第一〇五特陸司令

通報 大海參一部

G B 電令作第一五七號

一、横領一〇五特陸及佐領一〇五特陸ノ訓練地ヲ第二千歳基地トス

二、横須賀及佐世保領守府司令長官ハ夫々横領一〇五特陸及佐領一〇五

特陸ヲ速ニ第二千歳ニ進出セシムベシ。

通二六三三 呂一Aケ十四 (B)(GB)P

1725

Handwritten notes: Y. 1054, B. 1054

作戰緊急

八四

受

信

二三〇五

譯

了

二三四〇

電〇二四〇二

作

本

〇

海軍總隊各部隊
大本營海軍部

機密第〇四一九五三番電

發 〇 〇 〇 隊長

一、通信譯報ニ依レバ米機動部隊ノ大部ハ明五日頃「レイテ」歸着ノ算大ニシテ英機動部隊ハ三日頃マリアナ方面ニ歸投セルモノノ如シ

二、米機動部隊ノレイテ在泊期間ハ從來ノ例ニ依レバ一週間乃至十日ノコト多シ

三、敵機動部隊ノ次期行動ハ今次行動ノ狀況及最近ノ敵宣傳狀況等ヨリ判斷スルニ我が戰意低下ヲ狙ヒ單獨機動空襲及沿岸砲撃ヲ企圖スル算大ナリ。

通二七三九

二二Aケ一四

八

七六

請受
始信

〇四五五〇
〇四四五五

請了〇五四九

電〇三五四七

航作

標本〇

緊急

先遣

部隊

戸

浪

ア

海軍總隊口、十方面艦隊口、六三一空

機密第〇六一〇〇二番電

發 第十一根據地隊司令官

〇B電令作第一五九號關聯

當隊機密第〇五一三六番電二分ノ一作成替

「カムラン」基地ノ現状其ノ他左ノ通

一、零式水偵用遮蔽寮留所八箇完備シアルモ不足數至急整備ス晴風ノ全

幅全長知ラサレ度

二、右寮留所ハ干潮時飛行機ノ出入不能ナリ

三、機庫ハ二五番以下ヲ保有シアリ五〇番以上ヲ要スルナラバ知ラサレ度

二三八〇光 呂三A(一七五九〇EC)一〇

八

九八

受信機 〇三〇〇三

〇一〇二〇五

電〇四五三

官房・令別・一令
事務・本・人事

親 展 急

● 東 通・木更津、三澤各航空基地
● 海 軍 總 隊 口

● 第一千歳航空基地

機密 〇八八四〇番電

竹添少佐

第三航空總隊長官 關部隊指揮官（三澤航空基地）

通報

第二別部隊陸軍兵力指揮官以下一〇〇名八日一六〇〇第二千歳基地

二道出完了トリ

爾余ノ部隊ハ明九日到着ノ豫定。

第五四九四 自一人々十四 (七三記) 積原

第七卷

第十倍限

大 正 十 年 十 月 十 日 陸 軍 省 令 第 一 〇 三 三 号

陸 軍 省 令 第 一 〇 三 三 号 陸 軍 省 令 第 一 〇 三 三 号

陸 軍 省 令 第 一 〇 三 三 号 陸 軍 省 令 第 一 〇 三 三 号

陸 軍 省 令 第 一 〇 三 三 号 陸 軍 省 令 第 一 〇 三 三 号

陸 軍 省 令 第 一 〇 三 三 号 陸 軍 省 令 第 一 〇 三 三 号

陸 軍 省 令 第 一 〇 三 三 号 陸 軍 省 令 第 一 〇 三 三 号

八十九 (陸軍ヨリ)

電〇四六一七 總作 B

參謀次長 (次官)

「新京」 關東軍總參謀長

關於參謀第四四號 (電註一部未著ナルモ配布ス)

「ソ」軍ハ九日零時頃ヨリ虎頭 虎林 東寧 五家子地區ニ於テ

小規模ノ地上攻撃ヲ開始セリ

(電註以下未著)

第二十回線

海軍

八 九 (陸軍ヨリ)

電〇四六一八

臨作日

特別緊急

〔京線〕 陸部 陸部 陸部 陸部

通電先 參謀次長 (次官)

參謀電第九三七三號

一 陸南師管區ヨリノ報告

第三軍ニ連絡シタル所「ソ」聯ハ東部正面(輝春)ニ於テ各所ニ

小部隊ノ攻撃ヲ開始セルモノノ如シ

懸津ハ夜半ヨリ敵不明機ノ攻撃ヲ受ケツツアリ

元山ハ四時頃不明機一機ノ襲撃ヲ受ク

金剛山東方海面四時十五分頃不明機飛來シツツアリ

二 方面軍ハ「ソ」聯ノ對日開戦必至ヲ豫期シ之ガ對慮ニ遺憾ナキヲ期

第十師團

海軍

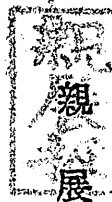


八
九

受信一〇三五六
譯始一〇三五

了了一一一五
電〇四八八一

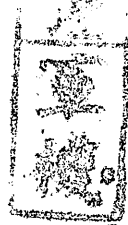
航作
本機〇



急
扱

海軍總隊口

横、佐各通信隊、三澤、第二美幌各航空基地



機密第〇九〇七四六番電

發 鵬部隊竹添中佐

宛 G B 參謀長

通報

横領・佐鎮各第一〇五特陸司令。鵬部隊・佐鎮參謀
横須賀海軍砲術學校長・浦部 G B 參謀（三澤航空基地）鵬部隊
寺島中佐・第二美幌航空基地

特陸訓練基地トシテ指導上千歳基地ヲ最適ト認メラルルニ付 G B 機密
第〇七一九四二番電ニ依ル鵬部隊ハ千歳ニ進出ノコトニ攻計ハレ度
尙本件寺島中佐諒解濟

五五三四呂一 A (八五一〇KG) 大放



八一〇

受信始 〇〇五一四四

了 〇七一三

電 〇五二七五

作 概 〇

緊急新用

大和航空基地

海軍艦隊口・木更津、松島各航空基地



機密 第九一三五七番電

發 第二劍隊長

宛 司令

通報 長官 七〇六空司令

一、第二劍航空基地輸送部隊（約二〇〇名）ハ本九日〇九四〇第二千歲

二到着

三、部隊ハ本九日ヲ以テ全兵力ノ集結ヲ完了但シ作戰資材搭載貨車二輛

未着。

通六〇二七 呂一Aケ十四（八五一〇E0）大進放

望月（秋 葉）

八九 受信二一五七 譯了

電〇五二三二

航作 本 〇

緊急 新聞 展

● 第一千歳航空基地

機密第〇九一四一四番電 二分ノ一

ソ國情報 (其ノ一)

マハソ一軍ハ東部北緯地方ニ侵入松江滿洲國境方面小隊圖アルモノ

ノ如シ樺太方面異狀ナシ

ニ極東方面蘇國航空兵力

(1) 浦鹽周邊南部沿海州四〇〇機

(2) 北部沿海州樺太四五〇

(3) カムチャツカ五〇

(電信課註本電二分ノ二未着)

通六〇二七 官 〇〇〇〇〇〇〇〇 大通

小

川

一 作戰區分

付決一 一 機作戦 大管管備區

付決一 二 機作戦 郵船及兵艦管備區

付決一 三 機作戦 領管管備區

二 作戰方針

陸軍來攻スル敵ヲ襲撃シ本土全境（朝鮮ヲ含む）並ニ北海道及

南部樺太ノ各要城（海峽地帯等）ヲ確保ス

三 作戰指導

對ソ持久作戰準備ヲ速ニ完成來攻スル敵ヲ襲撃シ以テ所定要

城ヲ確保ス

海軍

第...
十...
第...

第 一 信 號

(四) 日本海に遊スル各海峽ノ防備強化米ノ海上運路ヲ遮斷ス

(五) 一部兵力ヲ海峽諸島ニ配置スルト共ニ對空對潛警戒ヲ嚴ニシ

主要海上輸送路ノ確保ニ努ム

(六) 對米決戦兵力ノ對ソ作戦態用ハ之ヲ待合ス

四 附 令

對ソ積極的攻勢開始ハコソヲ待合ス

但シ敵ノ攻勢ニ對シテハ斷乎自衛行動ヲトルベシ

海

軍 令

作

八
一〇 受信二一四 譯了〇三五〇 電〇五六八二
一〇 譯始〇三三〇
航作
本概
〇

至親展披急

東通。第二千歲航空基地

機密第一〇一五九番電

發 橫聯特

宛 一〇五特司令

通報 千歲航空基地指揮官 G B 參謀長

橫聯特電令作第一號

橫鎮第一〇五特別陸戰隊ハ準備出來次第第二千歲航空基地ニ進出

教育訓練ニ從事スベシ同隊司令ハ行動ヲ豫定シ報告スベシ

(東通誌 G B ロツラ濟)

通六五七〇 呂一Aケ十四 (七三KG) 橫放



八一〇

受信二〇四五
詩始二一四五

譯了二一五八 電〇五六七六 作 概〇

至急
展急

東 通・第二千歲航空基地



機密第一〇一三〇三番電

發 橫聯特司令官

宛 一〇五特司令
機密命令 鵬部隊指揮官 (八月五日)

機密命令 鵬部隊指揮官ノ指揮下入ル機密海軍急隊命令作第

一五號ニ依ル任務ニ從事スベシ。

機密第一〇五特陸ハ鵬部隊指揮官ノ指揮下入ル機密海軍急隊命令作第

道六五二三 呂一Aヶ一四 (六一五〇KC) 機須賀

1741

白神運載船及航空機取替ヲ積極果敢ニ實施ス

自敵大規模遠襲戰ハ前二項ノ作戦ニ支障ヲ及ボサザル範圍ニ於テ之
ヲ強力ニ實施ス

三前諸項ノ外各部隊ハ聯合ニ依ル作戦ヲ執行スベシ

第十信
線

海軍